

計画段階評価対応方針

【砂防事業等】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき政策目標	複数案との比較	対策方針
<p>阿蘇山直轄砂防事業 九州地方整備局</p>	<p>・事業区域では、これまで繰り返し土砂災害が発生しており、近年では平成24年7月九州北部豪雨及び平成28年熊本地震において人家や国道57号、JR豊肥本線が土石流等による甚大な被害が生じた。</p> <p>・平成28年熊本地震とその後の降雨により事業区域の渓流及び河川に土砂堆積がみられる。</p>	<p>・阿蘇カルデラ内において年超過確率1/100規模の降雨が発生した際に土石流及び流木の発生する可能性が高い渓流において、集中的な対策施設の整備を行い、集落等への直接的な被害を防止・軽減するとともに、下流河川に流出する土砂量を低減し、土砂洪水氾濫による被害を軽減する。</p>	<p>・政策目標が達成可能で、阿蘇山での実現性及び確実性等の観点から概略評価を行い、抽出した3案を7つの評価軸（「安全度」「費用」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価。</p> <p>（第1案）山腹保全工を中心に整備する案 ・崩壊地等の土砂生産抑制のため、土砂生産源における山腹保全工を中心に整備する計画。</p> <p>（第2案）砂防堰堤工を中心に整備する案 ・渓流や支川からの土砂生産・流出抑制のために砂防堰堤工を中心に整備する計画。</p> <p>（第3案）家屋移転を中心に整備する案 ・直接的な土石流被害が想定される区域の建物を移転する計画。</p>	<p>・費用及び実現性の観点から、最も有利な案は、第2案の「砂防堰堤工を中心に整備する案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、第2案による対策が妥当。</p>